

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く (35) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(35)—

1. 始めに

前報(34)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノソナタの曲です。

LONDON SLA 1009

モーツアルト ピアノソナタ 12 番へ長調
ピアノソナタ 10 番ハ長調
ピアノソナタ 4 番変ホ長調
ピアノソナタ 5 番ト長調
ロンドイ短調
ウイルヘルム・バックハウス (ピアノ)

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

LONDON 盤ということで、DECCA、逆相、第4時定数 High で聴いて行きます。バックハウスと言えば、ベートーヴェンが定番という印象ですが、モーツアルトはどうかということで、LINN LP-12 により、じっくり聴いていきました。バックハウスによるベートーヴェンの印象が強かったのですが、その印象を払拭するかのようモーツアルト弾きが変わったかのような演奏です。ときたま、バックハウスらしい豪壮なピアノリズムを覗かせたり、意外に繊細な表情を見せたりとしますが、過度な情緒に訴えるような演奏ではありません。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーブレーク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、バックハウスらしいモーツアルトの表現が把握できました。

以上